

# 全般季節予報支援資料 1か月予報

2026年6月25日

予報期間：6月27日～7月26日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## 特に注意を要する事項

沖縄・奄美では、2週目は気温がかなり高くなる可能性があります。

## 出現の可能性が最も大きい天候

北・東日本と西日本太平洋側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。  
西日本日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。  
沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

# 全般1か月予報(確率)

| 1か月   |      | 気温(%)    | 降水量(%)   | 日照時間(%)  | 降雪量(%) |
|-------|------|----------|----------|----------|--------|
|       |      | 低並高      | 少並多      | 少並多      | 少並多    |
| 北日本   | 日本海側 | 20:30:50 | 40:30:30 | 30:30:40 |        |
|       | 太平洋側 |          | 30:40:30 | 30:30:40 |        |
| 東日本   | 日本海側 | 10:40:50 | 40:30:30 | 30:40:30 |        |
|       | 太平洋側 |          | 30:30:40 | 40:30:30 |        |
| 西日本   | 日本海側 | 10:40:50 | 40:40:20 | 20:40:40 |        |
|       | 太平洋側 |          | 40:30:30 | 30:30:40 |        |
| 沖縄・奄美 |      | 20:30:50 | 30:30:40 | 40:30:30 |        |

| 気温    | 1週目(%)   | 2週目(%)   | 3~4週目(%) |
|-------|----------|----------|----------|
|       | 低並高      | 低並高      | 低並高      |
| 北日本   | 20:50:30 | 20:30:50 | 20:30:50 |
| 東日本   | 30:50:20 | 10:40:50 | 10:30:60 |
| 西日本   | 30:50:20 | 10:40:50 | 10:30:60 |
| 沖縄・奄美 | 20:50:30 | 10:30:60 | 20:40:40 |

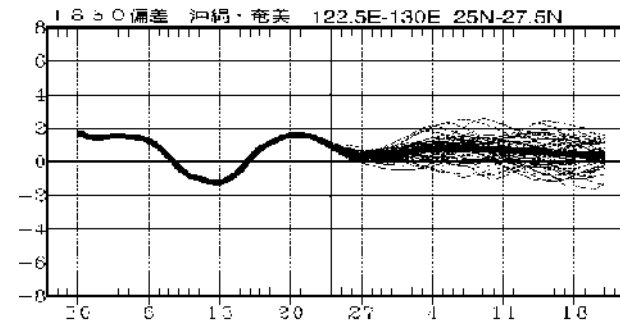
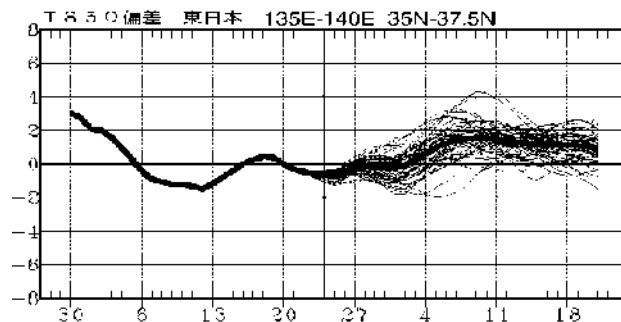
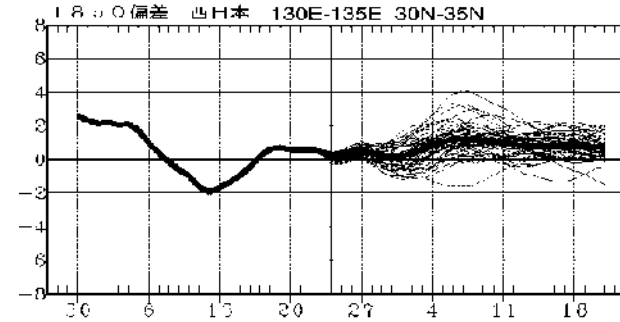
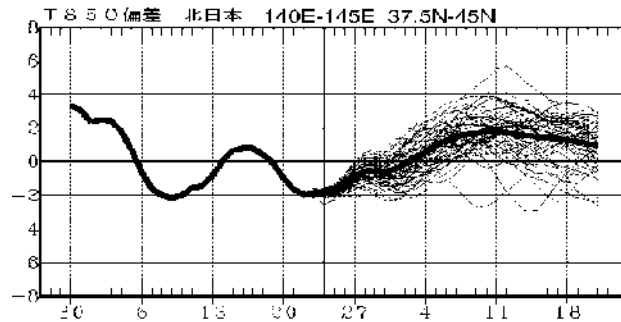
# 全般1か月予報のポイント

- 向こう1か月の気温は、全国的に暖かい空気に覆われやすいため高く、沖縄・奄美では、2週目は気温がかなり高くなる可能性があります。
- 西日本日本海側では、梅雨前線や湿った空気の影響を受けにくい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。

# 各週における天候のポイント(気温)

|             | 1週目(6/27~7/3)                           | 2週目(7/4~7/10)                     | 3~4週目(7/11~7/24)                  |
|-------------|---|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 想定される天候(気温) | 全国的に平年並。                                | 全国的に高温で沖縄・奄美では、かなり高くなる可能性がある。     | 北・東・西日本では高温、沖縄・奄美で高温傾向。           |
| 根拠          | 全国的に平年並だが、冷涼な空気の影響を受ける時期がある(P12,P13参照)。 | 沖縄・奄美を中心に暖かい空気に覆われやすい(P12,P13参照)。 | 東・西日本を中心に暖かい空気に覆われやすい(P12,P13参照)。 |

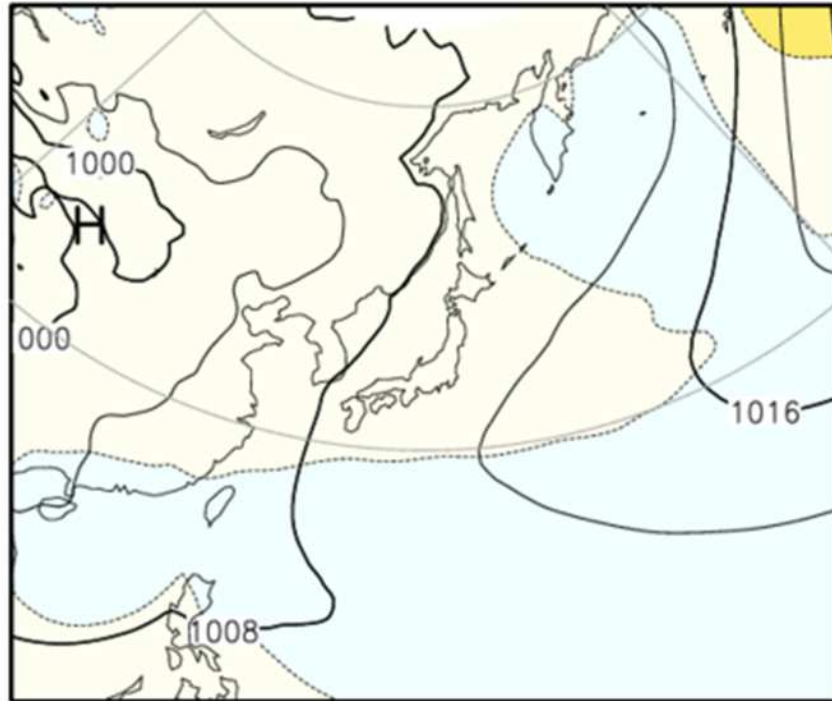
## 850hPa気温偏差時系列



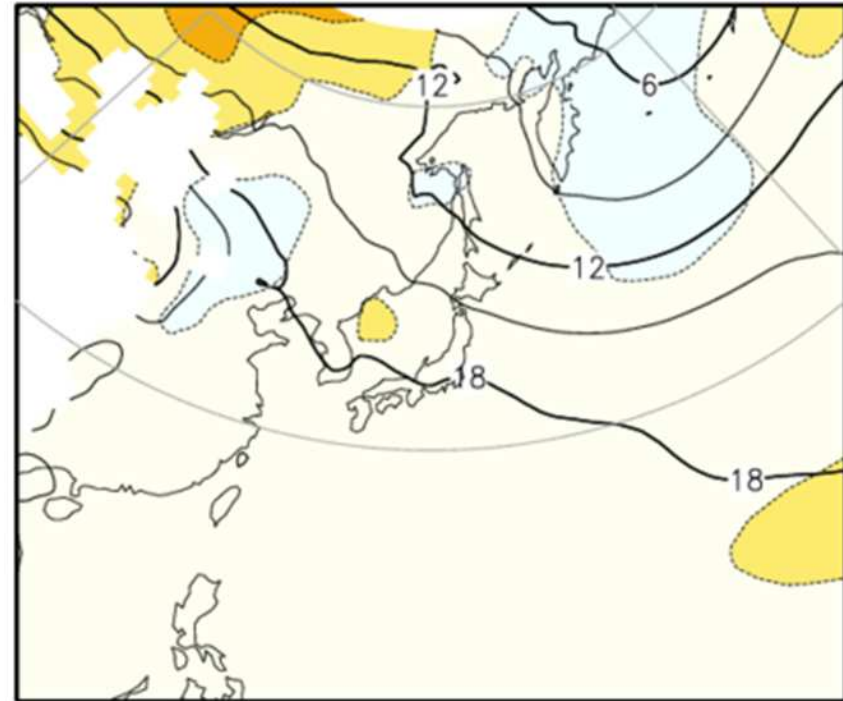
# 各週における天候のポイント(天気)

|             | 1週目(6/27~7/3)   | 2週目(7/4~7/10)   | 3~4週目(7/11~7/24)   |
|-------------|---|---|--|
| 想定される天候(天気) | 北日本日本海側では、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。北日本太平洋側と東・西日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。沖縄・奄美では、梅雨前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。 | 北・東日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。西日本では、梅雨前線や湿った空気の影響を受けにくいいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 | 北・東・西日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 |
| 根拠          | 北日本日本海側では、高気圧に覆われやすいため少雨・多照傾向。東日本太平洋側では、期間のはじめを中心に梅雨前線や台風の影響で多雨傾向。沖縄・奄美では梅雨前線や湿った空気の影響を受けやすいため寡照傾向(P10-P13参照)。                  | 北・東日本と沖縄・奄美では、平年と同様の天候だが、西日本では、梅雨前線や湿った空気の影響を受けにくいいため、少雨・多照傾向(P10-P13参照)。                               | 全国的に平年と同様の天候(P10-P13参照)。                                 |

## 海面気圧(1か月)



## 上空約1500mの気温(1か月)

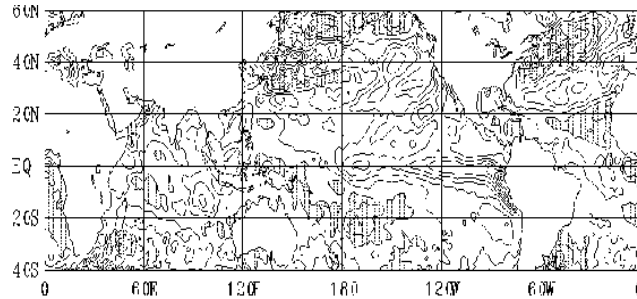


1か月平均の海面気圧(左図)では、日本の南東海上から西日本にかけて、高気圧が張り出しています。このため、西日本では梅雨前線や湿った空気の影響を受けにくい時期があるでしょう。一方、華南から日本の南にかけて平年より気圧が低いと予測され、沖縄・奄美では梅雨前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。

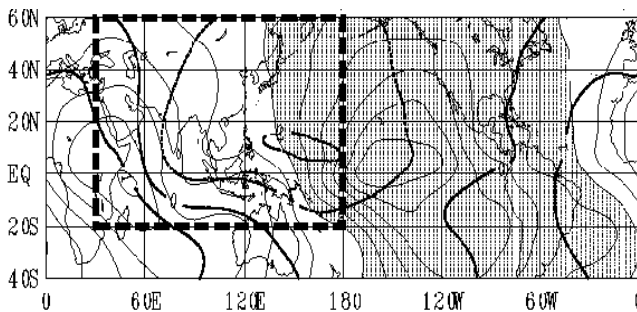
上空約1500mの気温(右図)は、全国的に平年より高いと予測され、東・西日本を中心に暖かい空気に覆われやすいでしょう。

# 予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

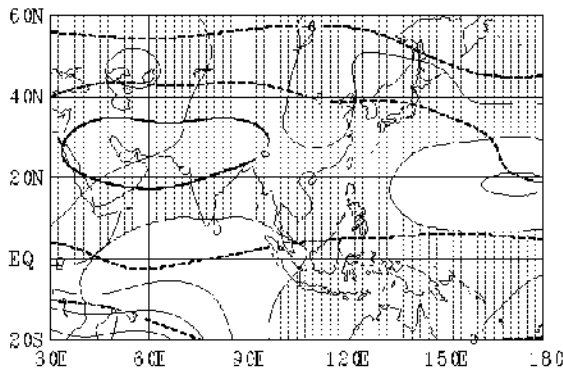
## SST偏差



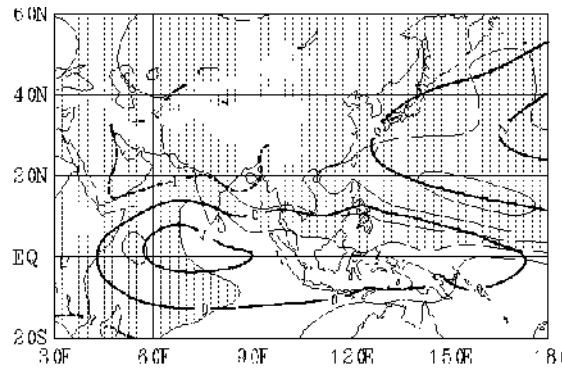
## 200hPa速度ポテンシャル



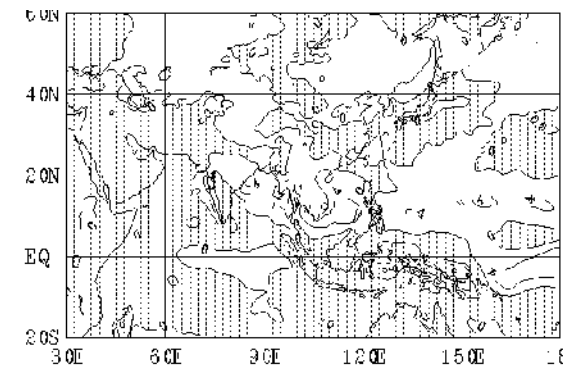
## 200hPa流線関数



## 850hPa流線関数



## 降水量偏差



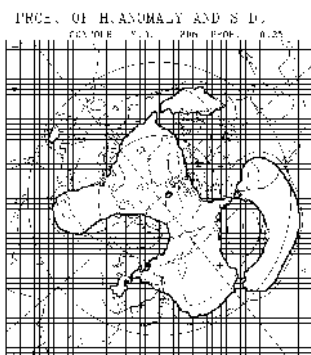
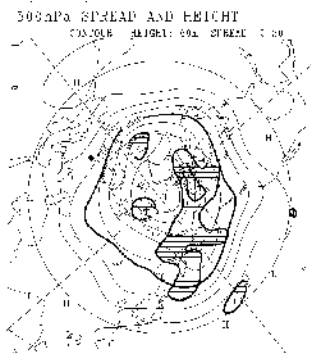
SST偏差は、太平洋熱帯域では中・東部を中心に広く正偏差。西部では負偏差もみられる。

200hPa速度ポテンシャルは、熱帯の対流活動に対応して太平洋熱帯域の中部を中心に上層発散偏差、インド洋西部を中心に上層収束偏差。

200hPa流線関数は、熱帯の対流活動に対応して、日付変更線付近を中心に高気圧性循環偏差。また、ユーラシア大陸から日本付近にかけての亜熱帯ジェット気流沿いに波列がみられ、日本付近は相対的な高気圧性循環偏差。

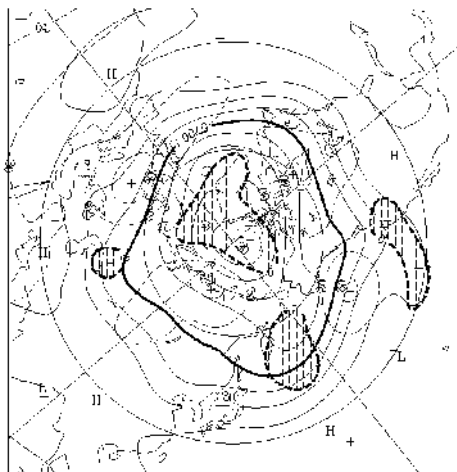
850hPa流線関数は、熱帯の対流活動に対応して、南シナ海から日付変更線付近にかけて低気圧性循環偏差。

降水量は、インドシナ半島付近から日付変更線付近で多雨偏差。

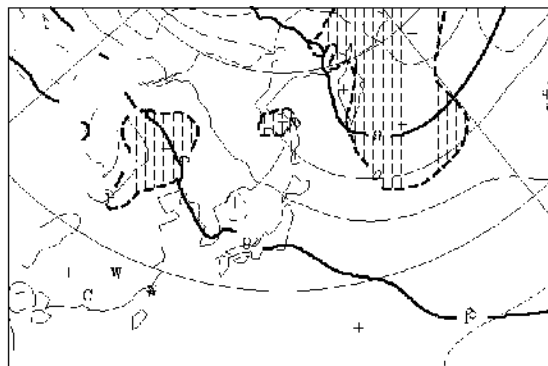


500hPa高度は、全国的に正偏差。  
850hPa気温は、全国的に正偏差。  
海面気圧は、日本の南東海上から西日本にかけて正偏差で、西日本を中心に梅雨前線や湿った空気の影響を受けにくい時期がある。一方、華南から日本の南にかけて負偏差で、沖縄・奄美では湿った空気の影響を受けやすい時期がある。  
ただし、500hPa高度では、オホーツク海高気圧の強まりに影響する東シベリアでのスプレッドが大きいことから、日本付近への寒気の影響は北ほど不確実性が大きい。

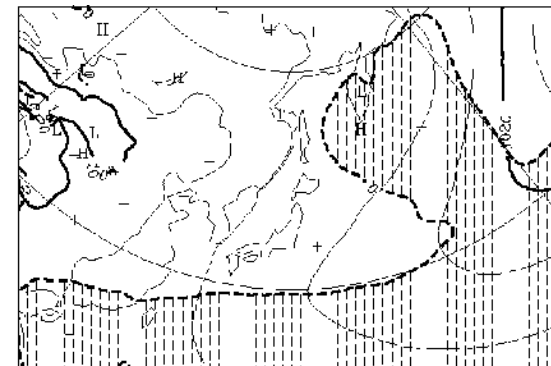
500hPa高度



850hPa気温

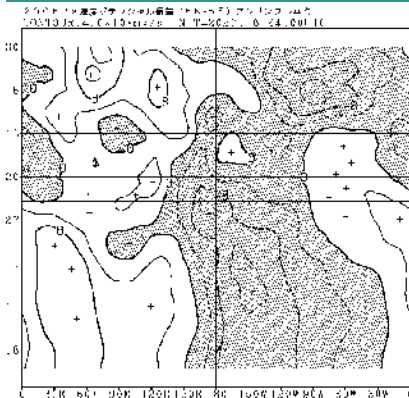


海面気圧



# 予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

## 200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



200hPa速度ポテンシャルは、1週目は、インドシナ半島と太平洋中部を中心に上層発散偏差、インド洋西部を中心にインドネシア付近で上層収束偏差。2週目以降は、太平洋中部で上層発散偏差、インド洋西部を中心にインドネシア付近にかけて上層収束偏差。

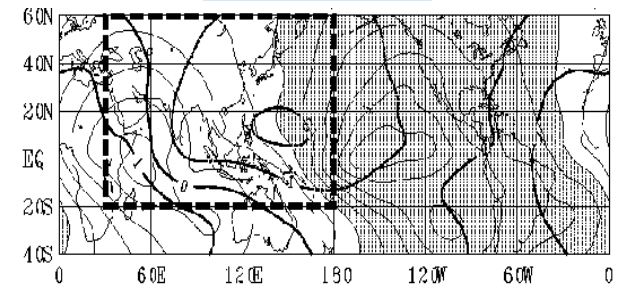
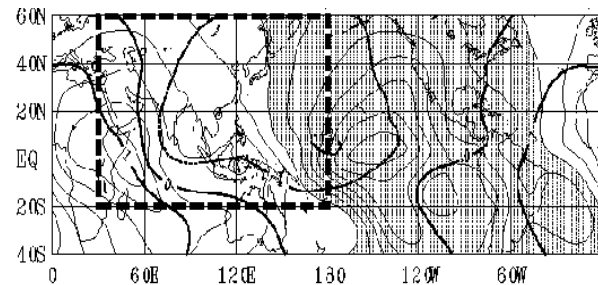
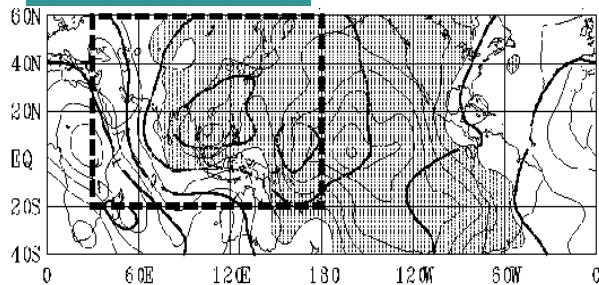
降水量は、1週目は、インドシナ半島からフィリピン付近にかけてと日付変更線付近を中心に多雨偏差。日本付近では、東日本太平洋側を中心に多雨偏差。2週目以降は、フィリピンの東で多雨偏差。

## 200hPa速度ポテンシャル

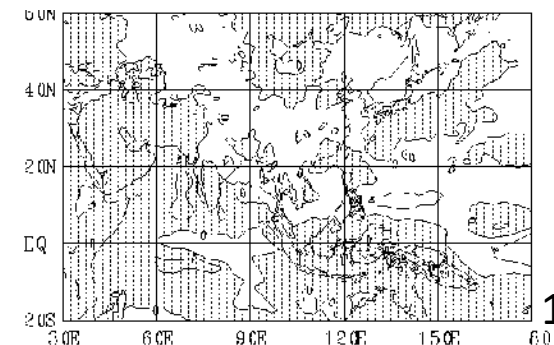
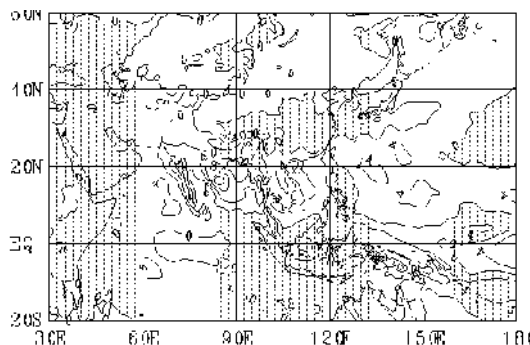
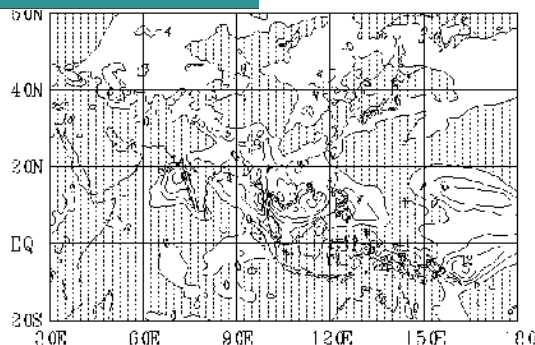
1週目

2週目

3~4週目



## 降水量偏差



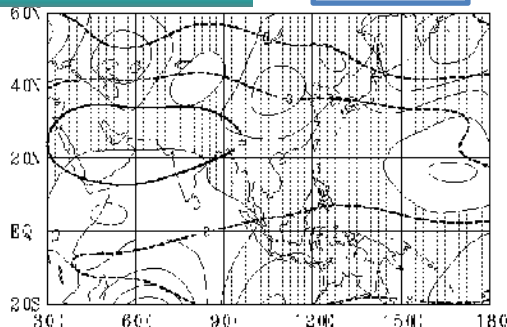
# 予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、各週に亜熱帯ジェット気流沿いの波列が見られる。1週目は、華北付近を中心に低気圧性循環偏差、日付変更線の西を中心に高気圧性循環偏差。2週目は、華南を中心に低気圧性循環偏差、フィリピンの東から日付変更線付近にかけて高気圧性循環偏差。3~4週目は、華北付近で低気圧性循環偏差、本州付近では高気圧性循環偏差。

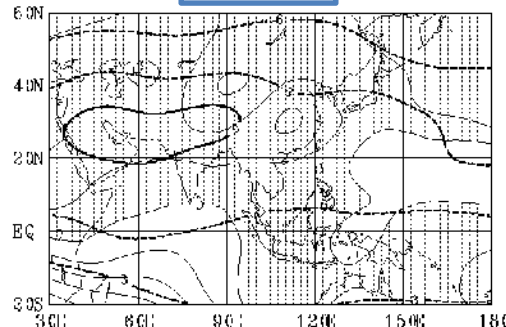
850hPa流線関数は、1週目は、南シナ海付近と日付変更線の西で低気圧性循環偏差、日本付近で高気圧性循環偏差。2週目以降から、フィリピンの東から日本の南にかけて低気圧性循環偏差。

## 200hPa流線関数

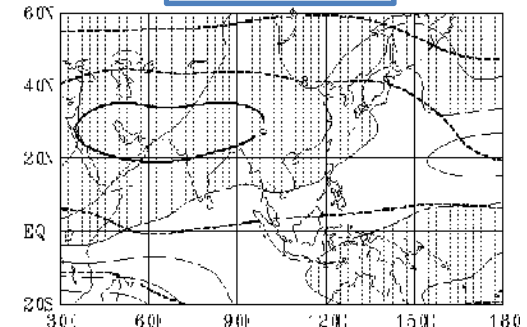
1週目



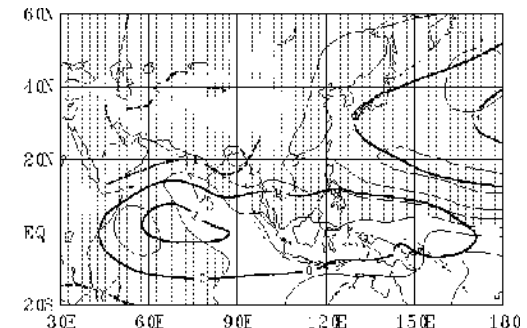
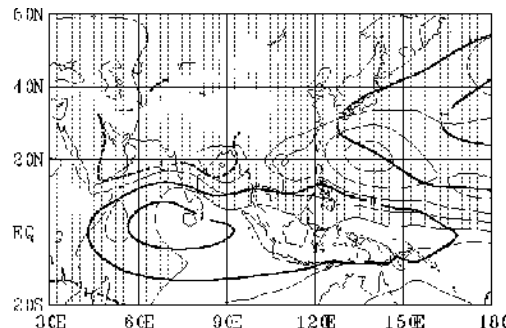
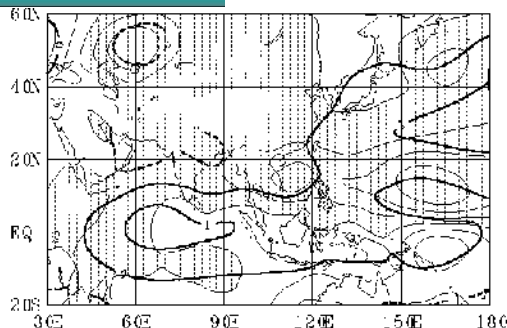
2週目



3~4週目



## 850hPa流線関数



500hPa高度は、1週目から2週目は、本州付近を中心に正偏差。3～4週目も全国的に正偏差。

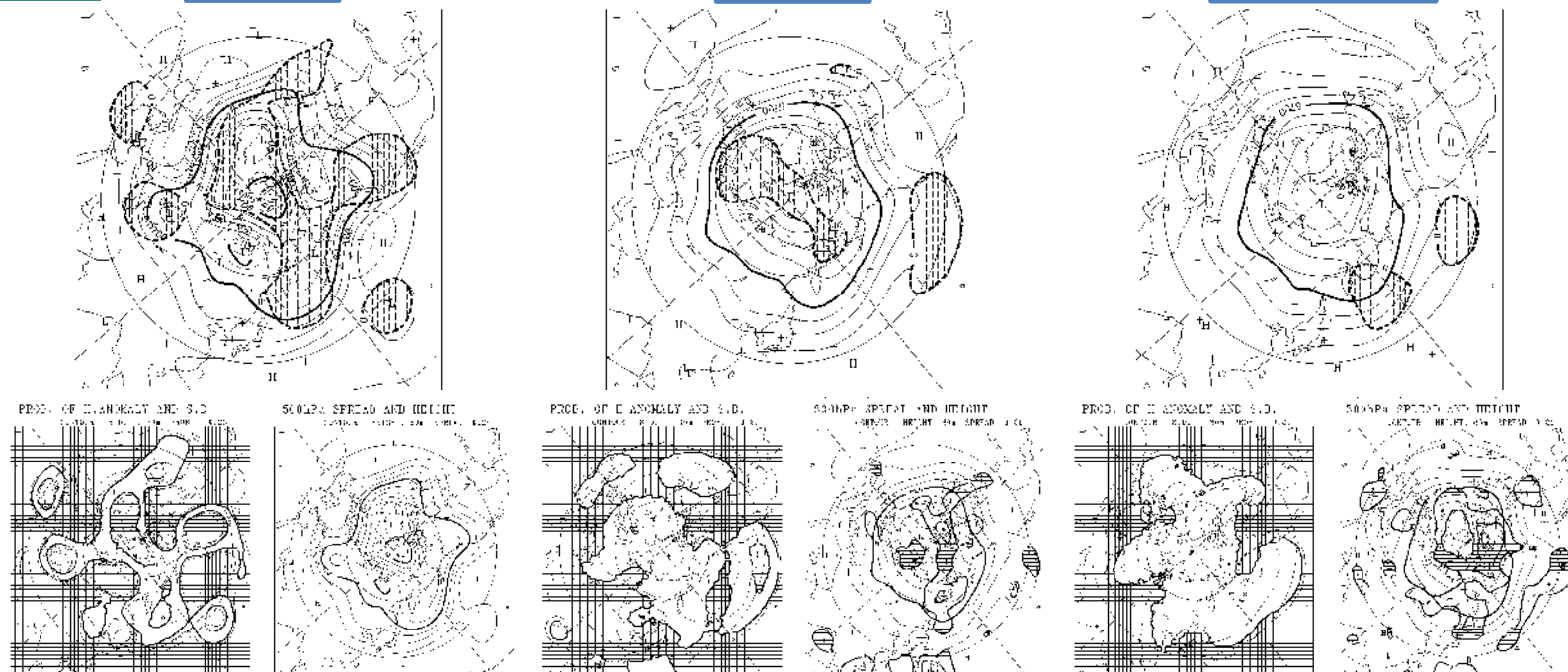
なお、2週目以降は、オホーツク海から東シベリアと日本の南のスプレッドが大きく、日本付近への寒気の南下の程度や熱帯擾乱の影響に不確実性が大きい。

## 500hPa高度

### 1週目

### 2週目

### 3～4週目



# 予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、1週目は、北・東・西日本で負偏差だが平年からの隔たりは小さい。2週目以降から日本付近では、正偏差。

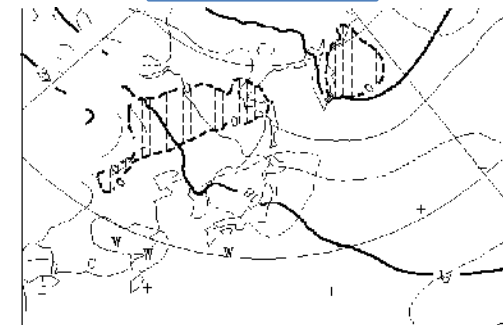
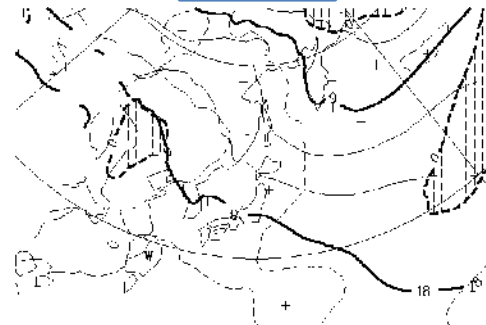
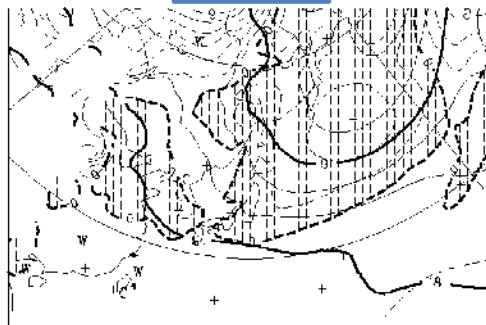
海面気圧は、1週目は、北日本日本海側では、高気圧に覆われやすい。また、西日本日本海側では、梅雨前線や湿った空気の影響を受けにくい。一方、東日本太平洋側に気圧のくぼみがあり、台風第7号、第8号や梅雨前線の影響を受ける時期がある。また、沖縄・奄美では、梅雨前線や湿った空気の影響を受けやすい。2週目は、太平洋高気圧が西日本付近を中心に張り出しやすく、特に西日本では、梅雨前線や湿った空気の影響を受けにくい。3～4週目は、日本付近の偏差は小さい。

1週目

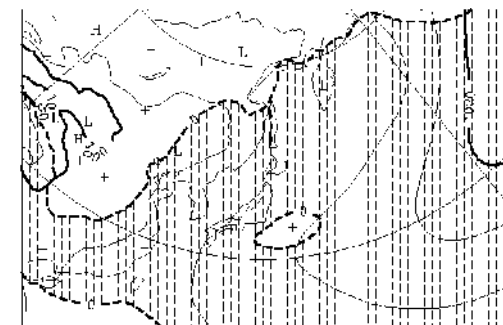
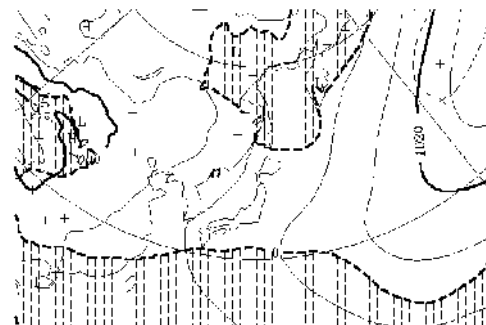
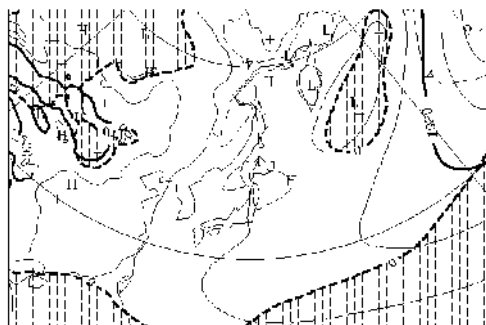
2週目

3～4週目

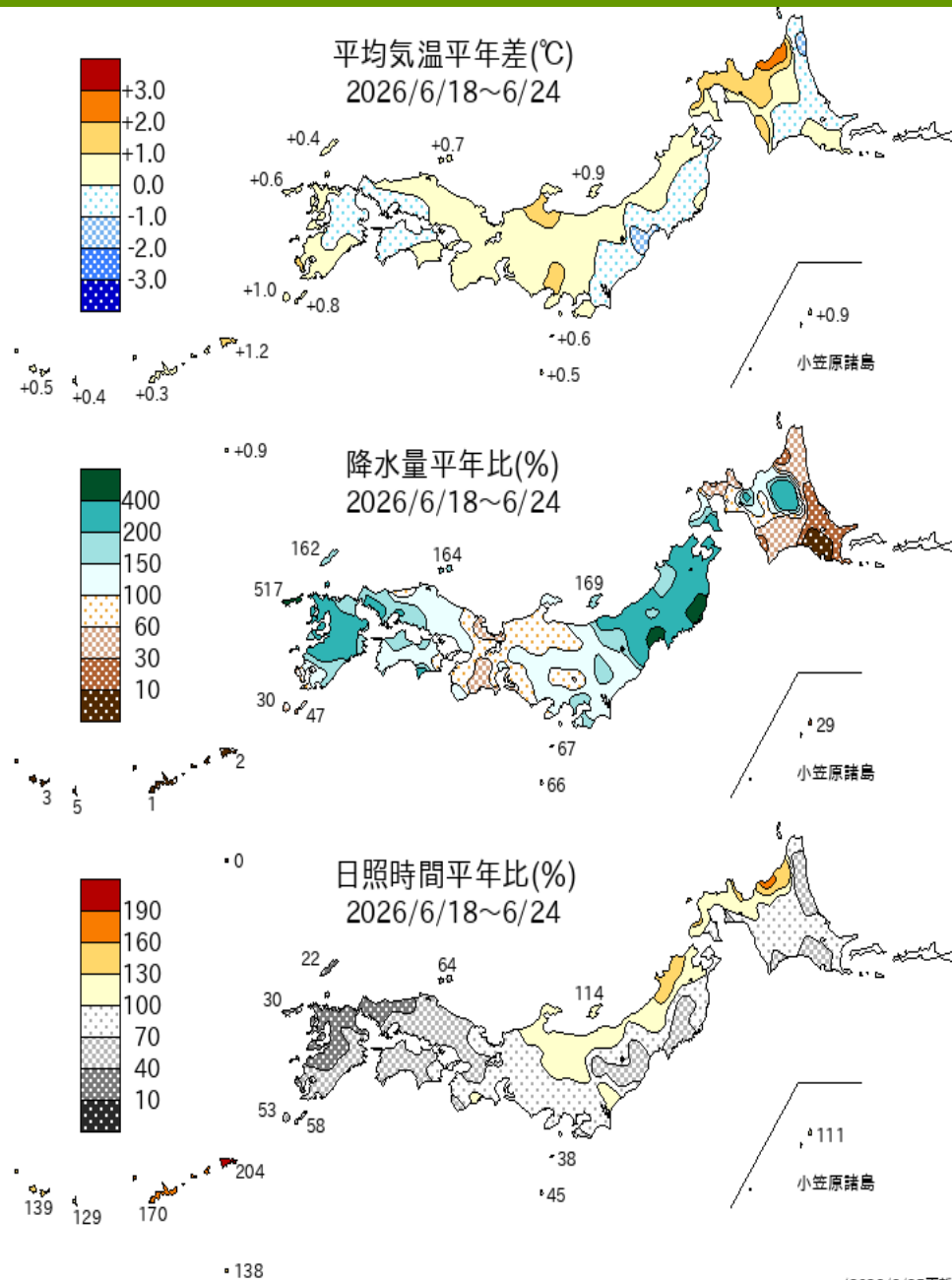
850hPa気温



海面気圧



# (参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(6月18日~6月24日)は、北・東日本では、高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、気圧の谷や低気圧、梅雨前線の影響を受けやすかったため、太平洋側を中心に曇りや雨の日が多くなりました。特に低気圧の影響を受けた東北地方を中心に、降水量が平年を大きく上回りました。また、日照時間は梅雨前線の影響を受けやすかった太平洋側を中心に平年を下回りました。西日本では、梅雨前線や湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多くなりました。特にその影響を受けやすかった九州北部地方を中心に降水量は平年を上回り、日照時間は平年を大きく下回りました。なお、24日は鹿児島県では線状降水帯が発生しました。

沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。このため、降水量は平年を大きく下回り、日照時間は平年を大きく上回りました。

気温は、オホーツク海高気圧の影響を受けた北日本太平洋側と、梅雨前線や湿った空気の影響を受けやすかった山陽、四国地方と九州北部地方では平年を下回りました。一方、その他の地方では暖かい空気に覆われやすかったため、平年を上回りました。